

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波篠山】 (<https://www.mcart.jp/exhibition/#jikai>)

3月18日(土)～5月28日(日)

特別展：丹波の茶道具 茶の湯を彩る兵庫のやきもの

中世を通じて無釉の焼締陶器の生産に終始した丹波焼は、近世をむかえると新たな展開を見せます。赤土部や灰釉などの装飾技法で器面を彩り、文化や経済の中心地である上方に向けたやきものを生産していきます。こうした地域で茶の湯が流行すると、他の産地と同様に丹波でも茶道具を作り始めます。水指や花入、茶入や茶碗など、趣向を凝らした茶陶とともに、茶葉を入れる耳付の壺が数多く生み出されました。丹波の茶道具には、工具で素朴な文様を施したものや端正な形状のもの、別の素材で作られた茶道具の姿形を写したものなど、当時の流行や茶人の好みも反映されています。また、暮らしの中で用いる壺や桶が茶の湯に適した道具として茶人に取り上げられ、茶道具に見立てられたものもあります。本展では、各時代の茶人に受け継がれ、愛蔵されてきた丹波の茶道具の魅力に迫ります。加えて、展示室内に茶室の空間を再現し、県下の諸窯で焼かれたさまざまな茶道具を取り合わせて、茶の湯の世界の一端を紹介します。

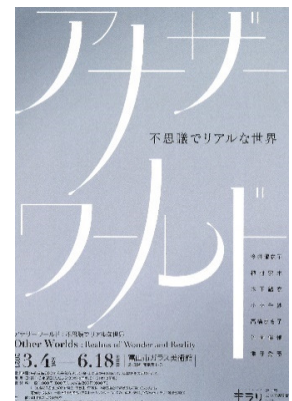


2. 富山市ガラス美術館【富山】 (<https://toyama-glass-art-museum.jp/exhibition/exhibition-5028/>)

3月4日(土)～6月18日(日)

企画展：アナザーワールド：不思議でリアルな世界

本展は、まさに現在(いま)を生きる7名の作家によるガラス作品約70件を、「アナザーワールド」としてご紹介するものです。見えるものと見えないもの、見慣れたものと見慣れないもの、内側と外側、夢と覚醒。本展作品に見るこうした相反する要素は、ガラスという、二面性をもつ素材だからこそ表現できるものではないでしょうか。これらの作品は、私たちのいる世界のもうひとつの姿を見せてくれるでしょう。現実と地続きにある「不思議でリアルな世界」との出会いをお楽しみください。



3. 富士山かぐや姫ミュージアム【静岡・富士】 (<https://museum.city.fuji.shizuoka.jp/exhibition/detail/176>)

2月18日(土)～6月4日(日)

企画展：彩り富士山 絵付けの陶磁器

武田弘氏寄贈、富士山コレクションから、富士山が描かれた陶磁器を紹介します。また併せて、金地の小屏風とカラフルな扇子や扇を展示し、さまざまな陶磁器に華を添えます。「絵付け」とは陶磁器に色を付けたり、絵を描くことでさまざまな技法があります。赤色をメインに多色を使う「色絵」や、藍色が美しい「染付」が有名ですが、中でも色絵は、陶磁器の装飾に大きな影響をあたえた技法で、日本では17世紀半ば、初代酒井田柿右衛門が肥前国有田(佐賀県)で完成させ、江戸時代末期に全国各地に広がりました。本展は特に鮮やかで美しい大皿や鉢18点を選び展示しカラフルに彩られた陶磁器の中の富士山を紹介します。



4. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】 (https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/)

令和5年度 多治見市美濃焼ミュージアム企画展:

中国陶磁 ～よみがえる山本コレクション～ 陶器編一

前期 4月29日(土・祝)～6月25日(日) 中国の土器 彩陶 漢代の緑釉陶器等

後期 6月28日(水)～8月27日(日) 唐代の三彩等 俑・明器

★6/27(火)は展示替えのためM1展示室を閉鎖します。

平成12年(2000年)に山本正之氏から寄贈いただいた中国陶磁を、約20年ぶりに展示します。417点ある作品の中から厳選し、陶器編と磁器編の二部構成にして、2年連続で紹介していきます。今回の陶器編では、会期の前半を土器などの彩陶や漢代の緑釉陶器などを、後半には唐代の三彩や墳墓の副葬品である明器を中心に展示します。紀元前4000年頃から筆状の道具で文様を描いた彩陶を作り出し、遙かなる歴史を刻んできた中国陶磁は、美濃窯はもちろん、我が国の陶磁器文化に多大な影響を与えてきました。古来より中国陶磁への憧れから陶工たちはそれを模倣し、現在に至るまで多くの陶芸家たちがその再現を目指したといっても過言ではありません。山本コレクションは、新石器時代の彩陶から清・中華民国時代の磁器におけるまで非常に幅広い時代にわたり、中国の陶磁器史をほぼ通観することができる貴重な資料です。今回、当館の収蔵品となってから約20年の節目にあたり、再度収蔵品の価値を見直す中で、美濃焼への影響をとらえる重要な資料として企画展示する運びとなりました。当コレクションを通して、美濃焼への影響を再発見しながら、中国陶磁の雄大な世界をお楽しみください。



【コレクター山本氏について】

山本正之<大正9年(1920)～平成12年(2000)>

兵庫県淡路島に生まれ、幼いころから民平焼の破片を拾って遊ぶなど、やきものに囲まれた環境で育ちました。昭和13年(1938)、伯父の経営する東京日本橋のタイル卸問屋に入社し、タイルのルーツを探るために世界中を渡り歩いて、50カ国以上の国々を旅してきたといいます。山本氏が選り取った膨大な数のコレクションは、各地の歴史や技術を伝える貴重なもので、極めて広範囲に及びます。これらは「公共の役に立てたら」というご遺志に基づき多方面へ寄贈され、現在に至り活用されています。昭和63年(1988)全国タイル業協会会長就任。平成2年(1990)勲四等瑞宝章受章。平成8年(1996)日本建築学会文化賞受賞。

開館時間: 9時～17時(入館は16時30分まで)

会場 多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーM1

休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日休み)

観覧料: 一般320円(260円)、大学生210円(150円)、()内は団体料金(20名様以上)

※高校生以下、障害者手帳の交付を受けている方とその付添いの方1名は無料

連絡先: 多治見市美濃焼ミュージアム 岐阜県多治見市東町1-9-27

電話:0572-23-1191 FAX:0572-23-4538

E-Mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp